

地域と共生するFFG

天草パールガーデン& 海中水族館シードーナツ リニューアルオープン!

さん わ こうぎょう
三和コンクリート工業 株式会社

にしき ど やす すけ
代表取締役 錦戸 保介 氏

取引店: 熊本銀行 天草・いつわ支店



天草4号橋(前島橋)と3号橋(中の橋)を背景に(左から野村頭取、錦戸社長)

体験型観光事業による地域活性化で、 持続的なまちづくりと次世代教育を目指す。

日本の地域社会では、人口減少、少子高齢化といった課題が、大都市にくらべてより深刻な状況となっており、地域社会の将来を見据える時、サステナビリティの考えやSDGsの取り組みが欠かせないものとなりつつあります。

熊本県上天草市松島町にある前島地区は、風光明媚な景観から観光拠点化が進められており、2021年12月にリニューアルオープンした「天草パールガーデン&海中水族館シードーナツ」は、前島地区における観光拠点の要ともいえるべき施設。同施設の運営を通じて地域活性化を図る錦戸企業グループの錦戸保介社長にお話を伺いました。

観光資源としての ポテンシャルが高い天草

私たちが運営を手がける「天草パールガーデン&海中水族館シードーナツ」は、もともと真珠や土産物販売、レストランなどの観光施設「天草パールセンター」と「わくわく海中水族館シードーナツ」が前身で、それぞれ天草パールセンター株式会社と株式会社松島町観光開発公社が運営していた経緯があります。

一方、私たち錦戸企業グループは、コンクリート二次製品製造販売が主力事業の三和コンクリート工業株式会社を中核として、石油、プロパン、運輸、管工事、通信事業、リゾートホテル、高齢者介護施設など、約20業種から成る組織で、幅広い事業活動を通じて60年以上にわたり天草の

地域経済活性化への寄与に力を注いできました。

2017年に、日本M&Aセンター株式会社の仲介で事業譲渡を受ける運びとなったのですが、観光によって天草の活性化に貢献したいという気持ちから事業を引き受けた次第です。天草はもともと観光資源としてのポテンシャルが高い地域で、天草五橋が開通した1966年当時、天草と阿蘇の日帰り観光客数はともに



約2,000万円をかけて製作した送迎バス「イルちゃん号」

約500万人と同規模でした。それが熊本地震の震災前には阿蘇が1,800万人に對して、天草が450万人と大きな差ができてしまい、観光産業に再び注力しなければ、人口減少など地域が抱える課題がいつそう深刻化するおそれがあります。

また、地元の上天草市も観光振興に力を入れており、行政機関が前島地区の観光拠点開発に積極的に取り組んでいる状況も、当グループが事業を引き受ける決断に至った理由です。

思わぬ規制の縛りを乗り越え 景観に馴染む和みの場を創出

二つの観光施設で構成される「天草パールガーデン&海中水族館シードーナツ」のうち、「天草パールガーデン」の前身である「天草パールセンター」は1966年開業で、当グループへと運営が引き継がれた時点で建物は著しく老朽化が進んでいる状態でした。改装するにしても限定的にしかできないため、全面的な建て替えが必要と



パールの店「天珠館」(左)とカフェ「café do mar」(右)



広場内のシンボルモニュメント

判断。前島地区の美しい眺めに似合うデザインコンセプトを取り入れる計画が進められました。

当初のイメージは、エーゲ海に浮かぶ有名な観光地のサントリーニ島を原形としたもので、島に建ち並ぶ丸い青屋根と白壁の建物を参考にしたいと考えていました。ところが、当施設は雲仙天草国立公園の区域内にあるため、環境省による規制が設けられており、建物の屋根の形や壁の色から植栽に到るまで、事細かにルールが定められていました。

そこで、景観と立地に配慮し、「日本の原風景」を基本コンセプトにした施設に造り替えるべく計画が見直されました。「原風景」を思わせる黒塀調の外壁が目を引き、建物に、朱の差し色や内装で遊び心を加え、いわゆる「和モダン」な印象に。環境省の認可が下りるまで一年以上かかってようやく着工にこぎつきましたが、結果的には、周囲の景観に溶け込みつつ、訪れる人の心を和ませる理想的な空間を実現できたのではないかと考えています。



1.自然の海中を見られるのはここならではの／2.幻想的なクラゲたち／3.5頭のイルカたちとふれあえます／4.イルカたちのダイナミックなジャンプをこんな至近距離で見られます／5.かわいい動きをするチンアナゴたち

リニューアルを機に 「体験型観光」を打ち出す

当施設のもう一つの目玉である「海中水族館シードーナツ」は、熊本県内唯一の水族館である点が最大の特長。また、まるで船舶のように陸上と係留された施設であるため、西日本で唯一の海に浮かぶ水族館でもあります。天草でよく見かける海の生き物はもちろん、世界中の海水魚、淡水魚、数センチの小型魚から1m以上の大型魚まで、約200種、2千点の多種多様な生物を飼育・展示。館内地下1階からは水深3mの海中を観察できます。

私たちが観光施設の運営を引き継ぐにあたって重点項目として位置付けたのは、「体験型」施設への転換。近年、大衆の消費傾向が「モノ」から「コト」へとシフトしている状況にあって、「体験型観光」が地域観光活性化の重要なカギとなっています。

以前からイルカとのふれあい体験などができる水族館でしたが、大規模な水族館に

くらべると施設がコンパクトである分、来訪者がより身近に生き物を感じられる環境となり、魅力的な差別化を図れる強みがあります。そこで、ふれあい体験、えさやり体験、トレーナー体験などのプログラムを充実させて、これまで以上に親しまれる施設を目指していきます。

さらには、見晴らしのよい眺望と開放的な雰囲気を楽しめるカフェ、海鮮丼を提供する飲食店などを新設した「天草パールガーデン」にも体験型施設への転換を推し進めて、真珠ブレスレットを始めとするオリジナルアクセサリ作り体験、キャンドル作り体験などを実施しています。

雇用創出、生きがいの提供、 教育への参画で地域貢献したい

観光を通じた地域活性化の取り組みは、持続可能な開発目標に向かって行動する国際的なSDGsの考え方に合致する部分がいくつかあるように思います。当施設のリニューアルでは新たに従業員を増やし



淡水魚の魚種と数も充実している

ました。雇用機会の創出を通じて地域貢献ができればという思いと同時に、従業員各自に対して、労働の対価としての報酬ばかりでなく、やりがいや自己成長も手にしながら、活き活きと長く働ける職場環境の提供を目指しています。これはSDGsの開発目標でいうところの「8. 働きがいも経済成長も」「11. 長く住み続けられるまちづくりを」に考え方の点で通底しているように感じています。



シードーナツからパールガーデンを望む

また、「海中水族館シードーナツ」は県内唯一の水族館である点を活かして、子供たちが海の生き物を知り、興味をもって学びを進めるきっかけの場としての役割を強化していきたい考えです。たとえば、地域の産学官の連携が今後さらに密になっていけば、海産系の仕事に従事する人材や海洋分野の研究者の育成につながる教育拠点として当施設が発展できる素地は十分にあるはずです。そして、そうした取り



みなさまのお越しをお待ちしております(左3人目から錦戸啓人専務、錦戸保介社長、野村頭取、海悦支店長(熊本銀行))

組みが将来的に進んでいけば、「4.質の高い教育をみんなに」、ひいては「14.海の豊かさを守ろう」に通じる活動も視野に入ってくるでしょう。

観光施設が集積する地区の シナジー効果をねらって

この前島地区では、「リゾートテラス」「ミオ・カミーノ」という観光施設が当施設に

隣接して並び、今後も近隣にリゾートホテルなどができる予定です。当施設では、コロナ禍の状況が収束したら、演奏会や緑日のような催しなど、施設内広場での催事による集客の取り組みを計画中ですが、近隣施設と連携しながら天草らしいイベントを展開して、シナジー効果で地域の求心力を高めていきたいですね。

天草は、熊本市からの場合、車によるアクセスの面でやや不便な立地とされますが、航空機なら福岡市から35分で乗り込むことも可能。天草が地盤の企業体として観光活性化の一翼を担い、県外からも観光客を取り込めるような話題づくりを仕掛けていけたらと思っています。

天草パールガーデン& 海中水族館シードーナツ

■所在地：

〒861-6102
熊本県上天草市松島町
合津6225-8

■電話番号：

0969-56-1155

■駐車場：無料

